2026年7月15日号（通巻139号）

NITTOSEIKO 日東精工 ニュースレター

京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地／日東精工株式会社経営企画室発行

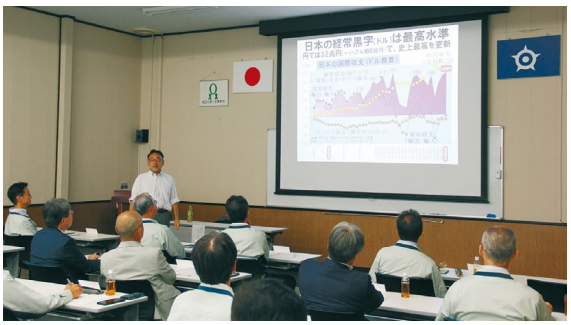
日本総合研究所の主席研究員で『里山資本主義』などのベストセラー著者、

藻谷浩介さんを講師としてお招きし研修会を開催しました

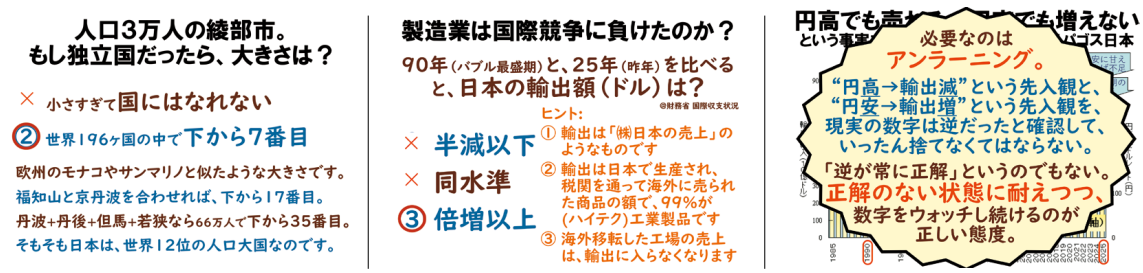
5月28日、綾部にある当社本社に『里山資本主義』『デフレの正体』などのベストセラー著者で、テレビなどでもおなじみの藻谷浩介さんを講師としてお招きし、役員を対象にした研修会を開催。「インド洋世界に目を向ける」というテーマで講演をいただきました。

藻谷さんは現在、㈱日本総合研究所の主席研究員を務められていますが、山崎善也綾部市前市長と前職・日本政策投資銀行で同僚だったご関係で、これまで綾部には何度か来られたことがあり、綾部の街のことを深く理解されています。昨年秋には「あやべ市民大学」で講師を務められましたし、かつてFMラジオの対談番組では「綾部は京都まで特急なら1時間ほどの距離。京都には大学も企業もたくさんあって、本来なら綾部の『社会減』は避けられないところ。しかしそうなっていないのは、地方創生という視点に立っていち早く施策をうってきたから。その効果が表れている」と発言され、さらに「地元の人も気づいていないけれど、綾部には京都よりも京都らしさが残っている」と綾部を高く評価されていました。

今回の研修会ではそういったご経験もベースに、中東をはじめ混迷を極める最新の国際情勢を解説しつつ、〈新しいものの見方〉〈ローカルからグローバルに視野を広げていく大切さ〉などを綾部と関連付けてお話いただきました。



当社は、東証プライム上場企業のほとんどが本社を東京や大阪などの都会に置く（移す）なかで、創業の地を大切にすべく、綾部に本社を置き続けています。と同時に欧州に新しい拠点を設けたり、インドでM&Aを進めたり……、これからも中期経営計画「Mission G-Final」のもと海外事業比率を高めてまいります。まさに〈ローカルからグローバルへ〉をより具現化していくものですが、これからもさまざまな講師をお招きして、視野が狭くならないよう学びを大切にしてまいります。



▲当日上映されたスライドの一部抜粋

■藻谷浩介さん 東京大学法学部を卒業、コロンビア大学経営大学院卒業。日本政策投資銀行を経て、株式会社日本総合研究所 主席研究員。著書『日本の進む道 ～成長とは何だったのか 』（養老猛司先生との対談、毎日新聞出版 2023年）、『東京脱出論』（ブックマン社2020年）『完本・しなやかな日本列島のつくりかた』（新潮文庫2018年）他多数

Trade show

日東精工グループ展示会を東日本支店で開催しました

当社では昨年3月にこれまで横浜の港北区・綱島にあった東京支店を新横浜駅そばに新たに東日本支店として移転しました。今般、この東日本支店の新しくなったショールームや商談スペースを利用して「日東精工グループ展示会」を開催しました。

当社はこれまでにも国内外のさまざまな展示会に出展し、新製品や多岐にわたる事業内容をたくさんの方にアピール。お得意さまとの関係を深耕すると同時に新規顧客の獲得につなげています。こうした従来の大規模展示会（見本市）を大切にしつつ、新たな試みとして、当社および当社グループ6社だけで構成する展示会を主催したものです（5月21日、22日、日東精工に加え、ケーエム精工㈱、㈱伸和精工、東洋圧造㈱、和光㈱、松浦屋㈱、㈱協栄製作所が参加）。

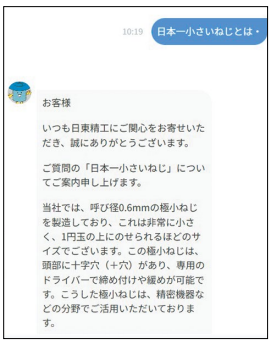
もちろん、これまでにも、ファスナーや冷間圧造製品関連で当社と伸和精工であったり、当社とケーエム精工であったり、分析関連では当社と日東精工アナリテックであったり、ときどきのテーマに合わせて共同で展示会に出展することもありましたが、さまざまな分野のグループ各社がこれほど複数そろってというのは初めてであり、来訪いただいた各社のお得意さま、関係者さまには日東精工グループの〈シナジーの高さ〉をより強く感じていただくことができました。

また、お客さまだけでなく、展示会を自分たちだけで共同開催するということで、グループ各社とのコミュニケーションも密になり、関係性をより深めることにもつながりました。

東日本支店は東海道新幹線「新横浜」駅から徒歩5分。首都圏からはもちろん、関西、東海、あるいは北関東、東北などからお客さまがお越しになるのに地の利がよく、今後も開催を検討中

「ねじっとくんチャットボット」を開設。AIが質問に回答していきます

6月1日から当社ホームページに「ねじっとくんチャットボット」を設置。当社のホームページに訪れた方が、日東精工グループ関連の製品や取り組みなど気になることを自由に質問して、それにAIが回答するというものです。知りたいことが瞬時に手軽に調べられるということで、「顧客満足度アップ」につなげていければと願っています。たとえば右の画像は「日本一小さいねじは？」という質問に対する回答一例で、このときの回答の最後には当社ホームページに掲載している「ねじの基本」のリンクも示されました。

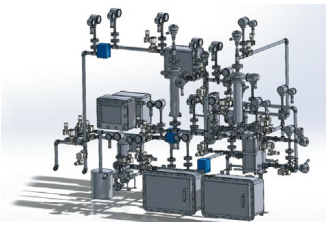


AI回答には細心の注意を払っていますが、正確性や最新性を保証するものではありません。重要な判断を要するものについては、スタッフがお応えするフォームも用意しています。

「溶剤リサイクル装置」を開発し「プラントショー2026」に出展

7月15日から7月17日まで、東京ビッグサイトで、化学およびプロセス産業プラントの総合展示会「プラントショー2026」が開催され、当社も出展。環境に配慮したこれまでにない新しい画期的な「溶剤リサイクル装置」をお披露目します（動画展示）。

当社と共同開発のパートナーであるイーセップ社が保有する「ナノセラミック分離膜」技術と、日東精工が得意とする「プラント製作・流体制御・防爆」技術。この二つの両者の強みを融合した「溶剤リサイクル装置」を開発。本装置の核となる「ナノセラミック分離膜」を展示し、その分離の仕組みをご覧いただけます。



イーセップ社との提携に関してより詳しい内容は▶

新しいIRイベント「ログミー IR Meet 2026夏」

投資家と企業がリアルで対話するIRイベント「ログミー IR Meet 2026夏」が6月20日に渋谷で開催され、当社も出展しました。 IRイベントについてはセミナー型のようなものもあれば、IRフェアのように不特定多数に企業ブースを設けるものなどさまざまありますが、「ログミー IR Meet 2026夏」は、一般の参加者との懇親会なども実施。投資インフルエンサーなどとも交流ができるという比較的新しいIRイベントです。

当社は企業間取引を主とするいわゆるBtoB企業ですが、それだけに事業や製品のことを一般の方にわかりやすく発信し、日東精工のことを理解していただくことが肝要と心がけています。今後もさまざまなチャンネルを大事にしてまいります。

日東精工「統合レポート2026」が完成 HPからダウンロード可能です

日東精工「統合レポート2026」が完成しました。日東精工が中長期的にどのような価値を創造し、持続的な成長を実現していくのかを、財務・非財務の両面からお伝えするものです。中期経営計画を軸に、事業戦略、サステナビリティへの取り組み、人的資本やガバナンスなどを相互に関連づけながら、当社の価値創造ストーリーを紹介しています。本レポートを、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまとの対話を深めるコミュニケーションツールとして活用し、いただいたご意見を今後の企業活動に反映してまいります。

ダウンロードはこちらから▶

危険物安全協会から当社従業員が表彰されました

当社ファスナー事業本部の中野友文が綾部市危険物安全協会から表彰を受けました。中野は勤続28年、現在は八田工場の屋内タンク貯蔵所を消防法に基づいて点検しています。今般、〈危険物取扱者免状を有し、危険物の安全管理について積極的に取り組み、勤務成績が優秀で他の模範になる者〉〈同じ事業所で危険物の取扱業務に5年以上従事し、事業主から推薦された者〉の基準を満たし、5月27日に開催された令和8年度綾部市危険物安全協会定時総会において、「危険物製造所等優良従業員」として表彰されたものです。日々の業務のなかでルーティンがマンネリに通じ、ついうっかり、ヒヤリが起こります。安全・安心はすべての基本であることを常に銘じてまいります。

写真向かって左から岩本正信綾部市副市長、武内聡綾部市危険物安全協会会長、当社ファスナー事業本部中野友文、岩永貴之綾部市危険物安全協会副会長、そして吉田好弘綾部市消防本部次長

誠の言霊（ことば）㊴

先見、今に宿る

代表取締役社長 荒賀 誠

宇宙航空研究開発機構（JAXA）理事の松浦真弓さんは日本初のフライトディレクタ（FD）を長く務めた方です。

FDはスポーツでいえば監督のような存在。刻々と変わる戦況を俯瞰し戦術を指示したり、選手を交代させたりしながらベストを常に追求する。試合のときだけでなく、練習も含めチーム全体を管理する、そんな役割が監督です。宇宙となれば、どうしても宇宙飛行士にスポットが当たりがちですが、FDは宇宙での任務を地上から見守り指揮する、運用の全責任を負う司令塔です。

その松浦さんが大切にしている言葉がNASA研修時代に先輩から言われた「Always Look Ahead」です。

「いつも前向きで」とも受け止められますが、その真意は「行くべき道を見続けなさい」「将来を見極めよ」ということ。宇宙開発に延期や中止はつきもので、辛い訓練をするモチベーションが途切れそうになる瞬間が何度も訪れる、そんなとき、この言葉が励みになったといいます。

「明日を煩うな」「一期一会」などという言葉があり、今が大事、その時その時を大切に生きよという教えもありますが、ある意味「Always Look Ahead」と裏表の言葉ともいえますね。未来に不安をもつのでなく、しっかり将来を見据えることで、今をしっかり生きる、輝かせることもできる。まさに「先見、今に宿る」です。

※「先見の明」は将来を見通しする鋭い見識のことですが、この〈将来を見通す力〉は今、この瞬間をいかに生きるかで養われるということで、「先見、今に宿る」と表現しました

「幸せ」を見つけるヒント ——— 7月

あやべと「書」

当社が本社を置くあやべには「岩王寺」があり、ここで採れた岩でつくった硯（すずり）を日本三筆（字が上手い歴史上の3名）のひとり、嵯峨天皇が愛用したという逸話が残っています。

7月は文月。ふみつきのいわれは諸説あるようですが、今号はふみ（手紙、書）にまつわるお話をひとつご紹介。知り合いで外国籍の方ですが所作が美しく、日本人的でもあるなと感心したことがあるのですが、その方が小さいときから書道と茶道を習っていたとお聞きしてなるほどと腑に落ちたことがあります。もちろん、教わる人、教える人によって当てはまらないこともあるでしょうが、「道」がつく習い事は日本を、日本の古きを学ぶということにつながります。スマホやタブレットの時代だからこそ、改めて書道を見直しても良いのかもしれませんね。

写真提供／綾部市観光協会

日東精工代表取締役会長 綾部商工会議所会頭　材木正己

発行：日東精工株式会社経営管理本部経営企画室
当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲読いただけます